

令和6年度 まちづくりシンポジウム 〈開催レポート〉



『やってみよう』からはじめる公共空間活用実践

官民連携まちづくり シンポジウム

群馬県の公共空間の使い方について考えよう！

【内容】

1. 基調講演 『やってみよう』からはじめる公共空間活用実践
2. 取組紹介 官民連携まちづくりプロジェクトチーム
3. トークセッション「これからの公共空間」

2025年1月31日(金) **参加費無料**

14時～16時 (開場 13時30分)

群馬県庁32階 NETSUGENセミナースペース (定員 50名)

公共空間の使い方についてあらためて考えるシンポジウム

群馬県官民連携まちづくりプロジェクトチームが、まちづくりの普及啓発を目的として実施する「官民連携まちづくりシンポジウム」は、令和6年度で計4回目となりました。

群馬県において官民連携まちづくりを推進してきた「官民連携まちづくりプロジェクトチーム」が今年度いっぱい活動に区切りを迎えることもあり、これまでの活動を踏まえて、官民連携まちづくりのノウハウ・知見を共有・継承することを目的として実施しました。

基調講演では、国土交通省今課長補佐を講師としてお招きし、ウォークアブルを切り口として、公共空間の使い方について初心者でもわかりやすくお話しいただきました。また、それだけでなく、実践者としての説得力のある講演は、参加者からの満足度の高いものとなりました。

取組紹介では、プロジェクトチームの高橋リーダーから、これまでの活動を紹介しながら、官民連携まちづくりの目的や考え方の説明がありました。また、県庁舎トライアル・サウンディングについて、県庁舎リノベーション推進室の高橋係長からも紹介してもらいました。

第三部のトークセッションでは、今課長補佐、都市計画課小島課長、県庁舎リノベーション推進室千葉室長、高橋リーダーの4名で、群馬県の公共空間活用について考えました。トークセッションを通じて、公共空間活用について参加者のマインドを大きく変えるプロジェクトチームの集大成にふさわしいシンポジウムとなりました。

第1部 基調講演

国土交通省都市局都市環境課 今課長補佐



IT企業を経て、2014年国土交通省入省。インフラツーリズムなど観光政策担当を担当。育休を経て、2018年都市局街路交通施設課に配属。車中心から人中心、ウォーカブルなまちづくりを全国に広める政策に携わる。2021年より関東地方整備局都市整備課長、2024年4月より都市環境課の立ち上げ準備室を経て7月より現職。プライベートでは地元小山市で子どもも大人も双方が楽しめる公共空間活用に挑戦。

○ウォーカブルとは「歩きたくなること」

「道路（街路）は、都市空間の構成の中でも30%を占めている。日本全体で見ると40%前後が道。道路のあり方が、都市のあり方を規定することになる。」とウォーカブル政策の有識者としての鋭い意見から基調講演が始まりました。日本は、自動車中心の社会構造になっているが、世界のウォークシフトの流れから数十年遅れでその流れに追随しているとのことでした。また、日本の中でも、大都市から中小都市まで、ウォーカブルの取組が始まっているが、大阪の御堂筋や愛媛松山の花園町通りに代表されるように西日本の方がその流れが強くなっているそうです。

ただ、ウォーカブルとは「歩ける・歩きやすい」ではなく、根源的には私たちの人間らしい暮らしを実現するための考え方であり、「歩きたくなる」ことが重要とのことでした。

これからの時代は、ただ公共空間を作っただけの時代からは転換し、「使う」ことが重要になりますが、行政は「使う」のが苦手なため、市民・民間事業者に「使う」の主役になってもらわなければならないと指摘。ご自身が住まれている小山市でも、公共空間の使い手が増えてきたことによりまちが面白くなってきたと感じているとのことでした。

○ 「生活者視点でまちを考えることが大事」

公共空間活用の話は、大都市だけと受け止められがちですが、そういうわけでもありません。

今課長補佐は、まちなかの広場でゲリラ的に活動を始めたことを契機として、公共空間活用のコミュニティが出来た事例を紹介。

また、「うちのまちにはプレイヤーがない」問題を取り上げ、大都市でも同様の問題は起こっているが、プレイヤーのネットワークを徐々に広げていくことで、小山でも上手くいったという成功体験を話していただきました。

「誰かと誰かが組むと動き出していく」、「楽しい町を作るには、まずは自分が楽しんでみる。生活者視点でまちを考えてみる」という素晴らしい言葉をいただきました。



■ 感想

公共空間活用のたくさんの事例や、データ、経験から培われた考え方は、とても深く突き刺さるものでした。社会実験的にとりあえずやってみて考えてみることなどは、まち・公共空間を活用していく必要があるこれからの社会において重要なポイントだと感じました。

第2部 取組紹介①



官民連携まちづくりプロジェクトチーム 高橋リーダー

○官民連携まちづくりについて

人口減少や少子高齢化など、群馬県を取り巻く社会環境は変化しています。そこで、群馬県では「まち（都市・地域）を経営」する観点から、公共施設・空間に民間の経営力を導入する“官民連携まちづくり”を推進しています。それにより公共サービスのあり方と、歳入確保の方法を同時に変えることで、持続可能な地域づくりを行っています。

取組にあたっては、県民・民間・群馬県の三方にメリットが生まれる「三方よし」となることが大原則となり、この「三方よし」により地域の魅力（エリア価値）が向上していくことを目指しています。

○プロジェクトチームの活動について

官民連携まちづくりの推進にあたっては、これまで公共空間は管理主体であったため、積極的な活用の意識になっていない「意識の壁」や、公共施設等の民間活用手法がわからない等といった「事業・制度の壁」などの問題があると考えました。チームとして「官民連携まちづくりの素地づくりをして、県内に波及させていく」ことをミッションとし、「とにかくやってみる」ことを大事にして活動していました。

「実践して見せることが何よりの説明になるはず」という考え方のもとに、道路空間を活用した社会実験を民間団体と協力して実施したり、歩道空間オープンテラス社会実験などを実施してきたとのことです。

また、官民連携まちづくりを広げていくために、「意識の壁」や、「事業・制度の壁」を打破すファーストステップとして「群馬県官民連携まちづくり基本方針」および「道路・公園・河川（河原）・公共施設の利用手続きガイド（以下、利用手続きガイド）」を作成しました。それに加え、民間事業者の積極的な活用を促すための事業制度として「ぐんまトライアル・サウンディング」を作成しました。これらを作成したことにより、群馬県の姿勢や考え方を対外的に打ち出すと同時に、公共空間利用のわかりにくさの軽減につなげ、公共空間活用の理解の促進につなげてきたと、これまでの取組を紹介いただきました。

第2部 取組紹介②

県庁舎リノベーション推進室 高橋係長

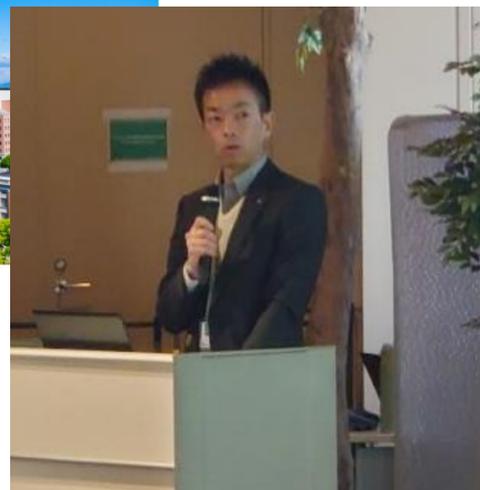
○県庁舎も県民の重要な資産

県庁舎リノベーション推進室は、令和5年度に出来た新しい組織で、県庁舎各所の有効活用の可能性について調査・検証する部署であり、活用可能性を検討するため、令和5年度にトライアル・サウンディングを実施しました。

どういった施設に貸し出しの需要があるのか、貸し出しに当たってどのような課題があるのかをトライアル・サウンディングで検証したことにより、現在の円滑な運用につながっているとのことでした。

今後は、低未利用な施設の活用促進や、利用内容の多様化・利用事業者等の裾野拡大、有償貸し出しの基準の更なる明確化などに対応していくとのことでした。

群馬県庁 県民広場等トライアル・サウンディング



第3部 トークセッション



国土交通省 今 課長補佐
群馬県 都市計画課 小島 課長
県庁舎リノベーション推進室 千葉室長
プロジェクトチーム 高橋リーダー

○これからの公共空間について

トークセッションでは、今課長補佐、高橋チームリーダーに加え、都市計画課小島課長、県庁舎リノベーション推進室千葉室長の4名で、群馬県の公共空間を考えました。

今課長補佐からは、水辺空間と公園は様々な制度が生まれ、官民連携まちづくりが進んできたが、道路空間は今一步。ただ、社会実験はめちやくちや増えているとの紹介がありました。話しの中では、群馬県の取組は素晴らしいというお褒めの言葉もいただきました。高橋チームリーダーは、県庁も大きくマインドが変わってきているという経験談を話し、県庁舎の事例のようにまちづくりをやりたいプレイヤーは多くいるので、相談できる体制作りが大事との指摘がありました。

また、会場にいた公共空間の施設管理者からも、管理担当者として判断に苦慮したが、地域の活性化に資するという視点から対応したという現場での対応事例を紹介してもらいました。

千葉室長から、県庁舎の貸し出しの判断については毎回苦労しているが、できるだけ前向きに利活用に協力していきたいという言葉がありました。小島課長からもまちづくりに対する熱い思いをお話し頂き、シンポジウムの参加者のマインドを大きく変えるトークセッションとなりました。

■ 感想

官民連携まちづくりを進めて行くには、施設管理者の理解が必要不可欠ですが、群馬県においては、利活用に前向きな姿勢になりつつあることが感じられたシンポジウムでした。また、想定以上に多くの方に参加いただけて、良いシンポジウムとなったのではないかと思います。

色々とお忙しい中、今回のシンポジウムにご協力いただきました皆様に、この場を借りて御礼申し上げます、本当にありがとうございました。

また、お忙しい中来場していただいた皆様にも感謝申し上げます。



左が県庁舎リノベーション推進室 千葉室長



右が都市計画課 小島課長



現場での対応事例を紹介いただきました。